

全国優良経営体 調査等委託事業 現地調査報告書

概要版

●経営改善部門

●生産技術革新部門

●6次産業化部門

●販売革新部門

●働き方改革部門

●担い手づくり部門

全国優良経営体調査等委託事業 現地調査報告書 [概要版]

目次

経営改善部門

- ① 株式会社桜井畜産（群馬県 前橋市）…………… 2
- ② 株式会社アグリスト（岐阜県 高山市）…………… 3
- ③ 有限会社もりかわ農場（滋賀県 長浜市）…………… 4
- ④ 株式会社あぐりー石（石川県 白山市）…………… 5
- ⑤ 株式会社百姓屋（佐賀県 伊万里市）…………… 6

生産技術革新部門

- ⑥ 有限会社岩石農産（佐賀県 白石町）…………… 7
- ⑦ 野田 伸一・桂子（長崎県 諫早市）…………… 8
- ⑧ 農事組合法人高野生産組合（新潟県 上越市）…………… 9
- ⑨ 有限会社ひかりファーム（富山県 小矢部市）…………… 10
- ⑩ 株式会社石橋果樹園（佐賀県 佐賀市）…………… 11

6次産業化部門

- ⑪ 有限会社ふぁむ（徳島県 鳴門市）…………… 12
- ⑫ 有限会社ナカシマファーム（佐賀県 嬉野市）…………… 13

販売革新部門

- ⑬ フィールドマスター合同会社（熊本県 八代市）…………… 14
- ⑭ 株式会社宮崎茶房（宮崎県 五ヶ瀬町）…………… 15
- ⑮ 株式会社高田牧場（長崎県 南島原市）…………… 16

働き方改革部門

- ⑯ 吉牟田 太（佐賀県 嬉野市）…………… 17

担い手づくり部門

- ⑰ 山口 仁司（佐賀県 武雄市）…………… 18
- ⑱ 有限会社農園ビギン（新潟県 小千谷市）…………… 19

1



株式会社桜井畜産【群馬県前橋市】

代表者名：桜井 克真
事業概要：肉用牛肥育・販売
経営規模：肉用牛肥育 1,200頭
従業員数：10名（役員4名、従業員6名）

特徴的な取組

1. オールインオールアウト方式で肥育を安定化

牛舎1棟（約100頭）を1口とし、肉用牛肥育としては珍しいオールインオールアウトの管理を行う。これにより作業の手間を省き、病気の抑制や肥育のバラツキを抑える等の飼養管理の効率化が図られている。



2. 血統重視の買い付けと飼養管理で早期出荷を実現

一般的には26か月齢で出荷するところを24か月齢で早期出荷できる体制を構築し、牛舎の回転率を上げている。飼料設計や、増体系の血統に併せた管理を行い効果的に肥育することで1頭当たりの枝肉重量も増加している。また、年に2～3回北海道へ行き血統の良い牛を買い付けに行っている。



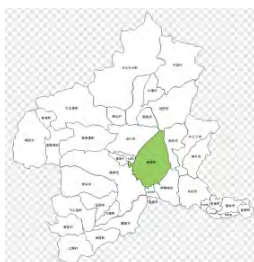
3. 家畜商としても地域農家と連携

家畜商は祖父の時代から行っていたが、20年ほど前から運搬だけでなく買い付けも行うようになった。地域の牛を多く取り扱っており、目利きとして肉牛農家からの信頼は厚い。近隣の肥育農家6軒と連携し、買い付けから出荷まで共同で行い、牛の輸送を代行している。家畜の代理輸送は、高齢化する周辺農家の労働力不足の解消にも役立っている。また、地元の家畜市場で継続的に売買することで優良な素牛が多く取引されるよう取組んでいく。



《地域の特徴》

当地域は群馬県中央部に位置し、農業産出額は357億円。畜産が65.7%、野菜が22.4%と2部門で全体の88%を占めている。さらに、米麦、花き、果樹なども地域の特性を活かした生産が行われている。



《経営の沿革》

昭和54年：現会長が20才で就農。
平成3年：現在の畜舎へ移転、200頭規模に拡大。
その後4年ごとに100頭ずつ増頭。
令和元年：株式会社桜井畜産設立。
長男克真氏が代表に就任。

現在（令和6年3月）は、肉用牛肥育1,200頭 売上高5.8億円、従業員数10名となっている。

2



株式会社アグリスト【岐阜県高山市】

代表者名：中野 俊彦

事業概要：トマト（施設）・菌床しいたけを生産、花もち加工

経営規模：5.1ha（トマト28,000㎡、しいたけ2.2万ブロック、
花もち50俵、イチゴ苗1,500㎡、スナップエンドウ
1,200㎡、水稻2.0ha）

従業員数：13名（役員4名、従業員9名、）アルバイト7名

特徴的な取組

1. トマトの新品種導入による単収・品質の向上による経営改善を実現

夏秋トマトの売上向上を目指すうえ、裂果および着果不良が多く発生していることが課題であったため、耐暑性品種の「麗月」を導入した。

結果、単収は高山市平均の11.6t/10aを上回る13t/10aまで引き上げることができ、経営改善が実現した。



2. 多角化経営の展開により安定した周年雇用を実現

高山市は中山間地域が多く豪雪地帯のため、周年雇用が難しい地域である。冬場に菌床しいたけ栽培を導入することで、安定した周年雇用形態を確立した。

トマトの生産力向上、ならびに地域雇用創出が可能となり、自社経営の改善のみならず、地域農業の発展にも貢献した。



3. 産地をけん引するリーダーとして地域農業発展に貢献

地域内においてトマトの新品種導入に先進的に取り組み、新品種（麗月）を産地にも普及させた。

地域でトップクラスの経営規模を有し、法人化による大規模経営の先導役として、地域の大規模化を目指す農業者のモデルケースとなり、地域農業発展に貢献している。



《地域の特色》

高山市は、集落と耕地が点在する中山間地域で標高差が極めて著しく、年間を通じて寒暖の差が大きい豪雪地帯。

夏秋トマトや夏ほうれんそうなどの高冷地野菜の生産が盛んで、その他ブランド牛「飛騨牛」生産などの畜産業も盛んである。



《経営の沿革》

平成14年：親元就農

平成25年：岐阜県青年農業士認定

平成27年：株式会社アグリストを設立（法人化）

令和4年：岐阜県指導農業士認定

現在（令和5年4月）は、夏秋トマトを中心とした多角化経営で、売上高1.7億円、従業員数13名となっている。



有限会社もりかわ農場【滋賀県長浜市】

代表者名：森川 勝

事業概要：水稻、麦、大豆、野菜、果樹の生産・販売

経営規模：140.1ha（水稻94.8ha、麦類23.7ha、大豆20.6ha、野菜1.0ha）

従業員数：12名（役員3名、従業員9名）

特徴的な取組

1. 食の安全や環境に配慮した農産物の生産に取り組む

「人の体に入るものは安全でないといけない」、「自然と共生できなければ農業は継続できない」という代表の信念のもと、平成2年頃から減農薬栽培を開始。環境汚染が国際的に問題となる以前からプラスチック肥料への切り替え等、食の安全と環境に配慮した農産物の生産に取り組んでいる。



2. 丁寧な栽培管理で、地域の信頼獲得と規模拡大を実現

大規模経営ながら丁寧な栽培管理を実施していることから、地域からの信頼が非常に高く、平成12年の法人化当時20haであった経営面積は令和5年140haへと拡大した。管理する農地は長浜市高月町を中心に17集落、約230人の地権者から約580筆の農地を預かり、全てに農場の看板を設置し、従業員が責任をもって管理にあたっている。



3. 高品質の農産物を作り、販路の確保・拡大に

品種・ほ場条件に応じた水管理や、施肥体系の切り替えなど細かな対応により品質を確保し、収穫後は低温で管理、注文に応じて精米し配送を行うなどの徹底した品質管理により、高品質なお米が評価され、現在は、卸業者や外食業者への出荷に加え、インターネット販売やふるさと納税の返礼品など、個人向けの販路も確保している。



《地域の特色》

県の北東部に位置し、琵琶湖湖辺の平坦な農業地帯から伊吹山系等の中山間地域を含む地域である。全耕地面積のうち、9割が水田となっている。その他、計画的に麦・大豆・そば・水田野菜といった土地利用型の畑作物が作付けられている



《経営の沿革》

昭和57年：現代表が就農。

平成12年：有限会社もりかわ農場を設立。
米の無農薬栽培を開始。

平成18年：新社屋へ移転。

平成19年：有機JAS認証を受ける。（以後毎年）

平成25年：いちじく栽培を開始。

現在（令和6年6月）は、水稻94.8ha、大豆23.7haなど140haまで経営面積が拡大しており、売上高1.4億円、従業員数12名となっている。



株式会社あぐりー石【石川県白山市】

代表者名：代表 新田 義宣

事業概要：水稻・大豆・大麦の栽培

経営規模：115.1ha（水稻80.0ha、大豆25.6ha、大麦9.0ha、ネギ0.5ha）

従業員数：9名（役員4名、従業員5名）

特徴的な取組

1. 省力化技術導入による労働生産性向上を実現

トラクターのメンテナンスに毎年一定程度費用がかかっていることから、コストパフォーマンスを高めるため付属機械等を導入。またその他省力化に資する機械を導入。

具体的には、けん引式の作業形態に対応できる機械やドローン導入により、従来の作業時間の4割削減を実現した。



2. 先駆的な取り組みによる水稻・大豆栽培を行い、生産性向上を実現

県内初に近い時期にスリップローラーシーダーを始めとした技術・農法等を導入した。

結果として、作業時間の削減（従来より5割削減）や栽培面積の拡大が可能となっている。



3. 規模拡大を見据えた先行投資を実施

地域農業の受け皿として急激に規模拡大を実施。規模拡大を見据えた先行投資（ライスセンター）を行うことで、100haの水稻面積に対応できた。

トラクター・コンバイン等の大型機械も適宜導入していることで、面積拡大に対応できている。



《地域の特徴》

白山市は、日本海式気候に属し、特性が顕著に現れる冬期には、北西からの季節風により気温が低く雪の降る日が多くなる。

白山市大規模経営体への農地集積も進んでおり、集積率は県内で最も高い77%（県全体64%）となっている。



《経営の沿革》

平成22年： 周辺農業者5名と会社を設立。

令和元年： ライスセンター建設。

令和3年： 代表の長男・次男が役員に就任。

令和5年： 農地面積100haまで面積を拡大。

現在（令和6年3月）は、経営面積115.1haまで面積拡大を行い、売上高89百万円、従業員数5名となっている。



株式会社 百姓屋【佐賀県伊万里市】

代表者名：市丸 初美

事業概要：養鶏（ブロイラー）、花苗、直売事業

経営規模：ブロイラー 70万羽、花苗 1,500㎡

従業員数：9名（役員4名、従業員5名）、アルバイト3名

特徴的な取組

1. 最新式ウインドレス鶏舎導入によりコスト低減を実現

就農当初、飼養頭数年間10万羽だったものが、令和5年までに年間70万羽まで規模拡大。その間、飼料等の生産費のコスト高に課題認識があった。最新式ウインドレス鶏舎の導入を契機に2戸1鶏舎（1鶏舎内を2つの空間に分ける）を完成させ、保温する容積を少なくすることで生産費削減を実現することができた。（早春導入雛のガス代は旧鶏舎と比較して49%低減）



2. 6次産業化の取組により佐賀県産ブランド「骨太有明鶏」の知名度向上を実現

佐賀県産ブランド「骨太有明鶏」の素晴らしさをより広めるため、自社ブランドの加工商品を多数展開。自社直売所での強い訴求や商談会出品、SNSでのPRに努めて、複数の賞を受賞し、知名度向上に寄与した。



3. 販売力強化のためのブランド化への取組み

花苗事業について、令和5年に環境制御型耐候性花ハウスの設置を契機に収益性の強化を図っている。販売力強化のため、ブロイラーのみならず、花苗「百笑(momoemi)」の商標登録を実現。今後は当ブランドの生産量を増やし、花苗事業の収益性強化に取り組む。



《地域の特徴》

伊万里市は佐賀県北西部に位置し、気象は降水量が多く、日照時間が短い特徴がある。主要農産物は、ナシ、ブドウ等の果樹や肥育牛、施設キュウリ。



《経営の沿革》

平成6年：夫婦で就農。

平成24年：株式会社百姓屋を設立。（法人化）

令和3年：ウインドレス鶏舎の設立。

令和5年：環境制御型耐候性花ハウスの設立。

現在（令和6年2月）は、ブロイラー70万羽、花苗1,500㎡haまで経営面積が拡大しており、売上高3.7億円、従業員数9名となっている。

6



有限会社岩石農産【佐賀県杵島郡白石町】

代表者名：岩石 学

事業概要：水稻、麦、大豆、玉ねぎ等の生産・販売と作業受託

経営規模：70.5ha（水稻19.8ha、麦類41.8ha、タマネギ3.1ha）

従業員数：3名（役員1名、従業員2名）

特徴的な取組

1. 先進技術の導入により作業を効率化

GPS搭載トラクターや、ドローン等のICT機器の導入を、地域はもちろん県内でもいち早く行い、活用。また、これらスマート農機の効果の最大化を図るため、RTK基地局も整備した。若い従業員が楽しみながら、正確な作業ができる体制を整え、労力の軽減と作業効率の向上を図っている。



2. グループ組成で、地域課題を解決

露地野菜の安定供給のため、北部九州の大規模経営体に呼びかけ、グループを設立。気象災害等で、収量を確保出来ない時に、連携できる体制を構築。近隣6軒の農家で菜種を活用した地域おこしに取り組み、菜の花祭りなども実施し、観光客や買いもの客の誘致につなげている。農地集約が進められる中、地域内外の均平作業が増加する事に備えて、町内のレーザーレベラー所有農家とコントラクター組織を立ち上げ、ほ場整備を進めるなど、地域課題の解決に尽力している。



3. 成果は地域へ還元し、稼ぐ産地づくりを目指す

毎年1つ新しい事にチャレンジし、成果は地域農業へ還元することをモットーとしている。地域に先駆けた先進技術や機器の導入、露地野菜の大型機械導入による作業の効率化など、得られた成果は地域の農業組織等で報告し、普及拡大に努めている。次世代育成についても、希望する者には生産技術だけでなく、経営に関する経験も支援し、独立就農に向けたひとづくりを実践。稼げる産地づくりを目指している。



《地域の特徴》

白石町は、佐賀南部に広がる白石平野に位置し、米麦大豆を主体とする土地利用型作物、タマネギ、レンコン、キャベツ、レタス等の露地野菜、イチゴ、アスパラガス等の施設園芸野菜等多様な作物が展開されている。



《経営の沿革》

平成10年： 現代表が就農。

平成18年： 有限会社岩石農産設立。

現在（令和6年3月）は、水稻19.8ha、麦類41.8ha、玉ねぎ3.1ha。売上高5,300万円、従業員数3名となっている。



野田伸一・桂子【長崎県諫早市森山町】

代表者名：野田伸一氏・桂子

事業概要：花き（スカビオサ）、水稻、WC Sの生産・販売

経営規模：1.6ha（花き7,500㎡、水稻0.45ha、WC S0.4ha）

従業員数：6名（役員4名、従業員2名）

特徴的な取組

1. 全国的に栽培が少ない草花類を経営の主に

草花類65aを栽培する施設花き専門農家。全国でも栽培が少ないスカビオサを県内で初めて本格栽培し、交配によるオリジナル系統の作出、挿し芽による増殖技術を独自開発。環境制御技術を導入したハウスの活用等により高品質・安定生産を実現、草花類経営を確立した。



2. 多数のオリジナル系統が市場で高評価を得る

良品を選んで独自に交配を行い、商品性の高い花色・花型を持つ系統を選抜、挿し芽増殖し、品種登録はしていないがオリジナル系統として栽培を行っており、これまでにないようなオレンジやピンク系、複色系品種など豊富な花色や、育種選抜により花持ちの良さが、市場で高い評価を得ている。アメリカへも輸出され、海外でのスカビオサの認知度が向上し、海外の種苗メーカーによる育種も始まった。日本へも苗供給が行われ、国内でも生産・需要ともに拡大している。



3. 高規格施設栽培で高収量・高収益を実現

計画的に規模拡大を進めるため、省力技術・環境制御技術を積極的に導入した。高温対策のため、全国的にも例の少ない軒高の高いフェンロー型ハウスの導入や、灌水同時施肥システムの導入、光合成促進用炭酸ガス発生装置とハウス内環境モニタリングに基づく環境制御機器の整備等をいち早く行い、安定的に栽培できる環境を整えた。これにより、高い生産性を実現し、収益も向上している。



《地域の特徴》

諫早市は県の中央に位置し、広大な干拓地や肥沃な丘陵地など自然の恵みの豊かな地域特性を生かして、水稻、野菜、果樹等の経営を主体とした多彩な経営が展開されている。



《経営の沿革》

平成12年： 現代表が就農

現在（令和6年3月）は、花き7,500㎡、水稻0.45ha、WC S0.4ha。売上高5,461万円、従業員数6名となっている。

8



農事組合法人 高野生産組合【新潟県上越市】

代表者名：関間 忠裕

事業概要：水稻 大豆、露地野菜の生産・販売と作業受託

経営規模：70.5ha（水稻66.6ha、大豆3.7ha、露地野菜0.2ha）

従業員数：8名（役員5名、従業員3名）

特徴的な取組

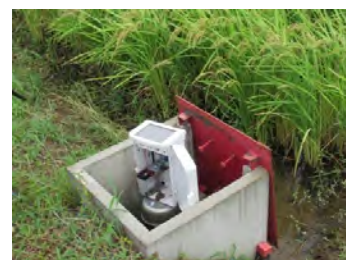
1. 地域農業持続のための経営モデル

令和元年に完了した基盤整備を契機に、大区画ほ場でのスマート農業一貫体系実証事業に参加。持続可能な地域農業を目指し、省力・低コストに向けたスマート農業の実践を加速させている。経験や習熟度に左右されない新たな労働力が参入しやすい環境整備と作業の効率化・省力化を進めている。新技術にいち早く取り組むことで、地域の経営体を牽引している。



2. 水稻栽培の徹底した省力・低コスト化

用途別の米生産については、収量・品質の安定確保と生産コスト削減の両立が課題となっていた。実証事業で導入した技術・スマート農機やシステム等を組合せ、より労働生産性の高い、効率的な生産に取り組んでいる。地域の土壌性質・気候に合致した不耕起V溝乾田直播にも、県内最大規模で取り組み、作業時間の削減と、コスト削減を図っている。



3. 余剰労力で排水対策を実施し、複合経営を進める

大豆栽培の団地化による収量・品質の向上と、経営安定のための園芸作物の導入には、この地域特有の重粘土質土壌の排水対策が必須であった。そこで、水稻経営の作業の省力化により生じた労力を活用し、明渠や補助暗渠の確実な施工を行い、併せて低コスト・省力化を実現する技術も導入した。大豆は反収が向上し、園芸作物は労力・コストともに削減されている。



《地域の特色》

上越市は新潟県の南西に位置し、当組合がある板倉区は上越市南東部に位置する豪雪地帯である。肥沃な重粘土質の土壌のため、市内でも有数の稲作地帯である一方で、大豆等の戦略作物の取組も多く、水田転換畑における取組も盛んな地域である。



《経営の沿革》

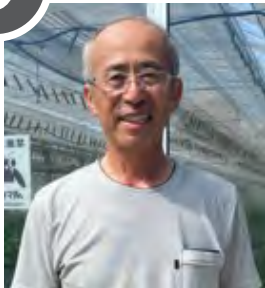
昭和46年：第二次農業構造改善事業により機械共同利用型の高野生産組合を創立。（参加83戸）

平成16年：（農）高野生産組合を設立。

平成30年：県営高野地区経営体育成基盤整備事業採択。大区画ほ場（最大4.2ha）整備の着工、令和5年完了。

令和元年：農林水産省スマート農業実証プロジェクト事業実施。

現在（令和6年3月）は、水稻66.6ha、大豆3.7ha、玉ねぎ0.2ha。売上高8,900万円、従業員数8名となっている。



有限会社ひかりファーム【富山県小矢部市】

代表者名：小倉 豊明

事業概要：トマト生産（施設園芸）、果樹生産

経営規模：2,820㎡、0.5ha（施設4棟 2,820㎡、果樹0.5ha）

従業員数：3名（役員3名）

特徴的な取組

1. 「深層水トマト」生産により、高い糖度を誇る大玉フルーツトマトの生産を実現

メーカー技術の水耕栽培と富山湾の深層水を組み合わせ、深層水によりトマトの生育中の給水を抑制させる、独自の栽培方法を確立。これにより、高糖度フルーツトマトの生産を実現。品質は評価されており、全国のお客に購入してもらえている。



2. コアなネットワーク構築により、高品質のトマト生産を実現

20年程度前に、協和株式会社が立ち上げたフルーツトマト部会にて意気投合した全国の農家のうち10名程度でコアなネットワークを構築した。自由闊達な意見交換や実証実験を行っており、高品質のトマトを生産する技術を開発



3. フルーツトマト生産等の挑戦

市場にないもの、お客が喜ぶものを作りたいという思い、またつくば万博でのハイポニカ栽培のお披露目を見ても感銘を受けたこともあり、米の一大産地である地域でフルーツトマト生産に挑戦。今後はさらにフルーツトマトの技術革新やマンゴー等の新品目に挑戦する意向あり。



《地域の特徴》

小矢部市は、富山県西部の小矢部川・庄川の扇状地で、散居村で有名な砺波平野の北部に位置した水田地帯で、稲作を主体とした水田農業が展開されている。



《経営の沿革》

- 平成7年：就農しミニトマトを生産。
- 平成16年：法人化し、有限会社ひかりファームを設立。
- 平成23年：市内の施設園芸の生産者で構成した「小矢部施設園芸組合」を設立。
- 平成26年：代表の子息が就農。

現在（令和6年1月）は、施設4棟のトマト2,820㎡、果樹0.5haまで経営面積を拡大。売上高33百万円、従業員数3名となっている。

10



株式会社石橋果樹園【佐賀県佐賀市大和町】

代表者名：石橋 健一

事業概要：温州みかん、モモ、スモモ等果樹の生産・販売

経営規模：10ha（温州みかん8.1ha、モモ1.5ha、スモモ0.2ha
シャインマスカット0.1ha、レモン0.1ha）

従業員数：4名（役員2名、従業員2名）

特徴的な取組

1. 伝統を活かしつつ、新たな技術で品質向上を目指す

大和地区伝統の貯蔵みかん「蔵入りみかん」を経営の柱としているが、腐敗果の発生によるロスを解消すべく、九州大学が開発したプラズマ発生装置を活用した腐敗対策の実証に取り組んでいる。併せて全ての園地で「脱化学物質栽培」を実行し、免疫力の高い果樹を育む環境づくりを目指している。



2. いち早く海外への販売を展開

自社生産した品質の高い果実を多くの人に届けるため、国内市場に留まらず、いち早く海外市場への展開を開始している。2023年にA S I A G A Pを取得。競合他社が多い中、輸入条件の厳しい国・地域への輸出に挑戦し、輸出市場とし注目度の高いベトナムについては、輸入解禁の翌年から輸出を開始している。現在、香港、シンガポールへも輸出しており、今後は、米国・EUも視野に入れて輸出を拡大していく。



3. 地域の牽引約として

中山間地域等直接支払制度の協定集落の中では、役員として集落の若手の声を地域の将来ビジョンに反映させている。また、集落で取り組む耕作放棄地の解消では、2020～2023年にかけて、約100aを借り受けて果樹園に再生し、周辺樹園地でのイノシシ被害軽減に寄与している。新規就農希望者の受け皿として、希望者を2年間雇用し、技術の習得と「のれん分け」による第三者継承により独立就農させる計画を、関係機関と進めている。



《地域の特色》

佐賀市大和地区は、内陸型気候であり、高糖系温州みかん（青島、大津、清水）を中心とした「貯蔵みかん」が主力の産地である。平均的な経営面積は約3haであり、柑橘専門農家が多い。極早生、早生については、有明海に面した温暖な気候である太良町（一部長崎県小長井町）の出作地で栽培されており、適地適作を実践している。



《経営の沿革》

平成19年： 現代表が就農。
令和2年： 株式会社石橋果樹園設立。

現在（令和6年3月）は、温州みかん8.1ha、モモ1.5ha、スモモ0.2ha、シャインマスカット0.1haレモン0.1ha、売上高3,674万円、従業員数4名となっている。



有限会社ふぁむ【徳島県鳴門市】

代表者名：井丁 俊
事業概要：サツマイモの生産・加工
経営規模：8.0ha（サツマイモ8.0ha）
従業員数：15名（役員4名、従業員11名）、アルバイト7名

特徴的な取組

1. 周辺農家を巻き込んだサツマイモペーストの生産により地域農業活性化に貢献

大毛島地域はサツマイモを多く生産する地域であるが、規格外品も多い状況。そうしたなかで、加工（ペースト化）することで付加価値をつけ、地域農家にとって、サツマイモの再生産が可能となる価格帯で買取りを実施。これらを通じて地域農業の活性化に貢献。



2. 当社加工品（ペースト）を生かしたスイートポテト製造・販売による地域活性化

当社と一体的に事業運営している株式会社丁井にて当社が製造したペーストをもとにスイートポテトを製造・販売。年間で365万個売り上げているヒット商品で、当商品の収益をもとに地域農家から再生産可能な価格帯でサツマイモを買取りできており、地域農業活性化に貢献。



3. 高い営業力によりヒット商品を生み出す

代表は高校在学時より自分で生産した農産物を自ら売り込みするなど、積極的な行動力、高い営業力がある。そうした経験等をもとに、地域外においても商品販売を行い、スイートポテトをヒットさせる。加工品を開始する際も、銀行との難易な交渉を成功させ、設備投資を実現できた。



《地域の特徴》

大毛島は鳴門市北東部に位置する島。島内は砂地が多いため、なると金時、鳴門らっきょ、スイカなどが盛んに栽培されている地域。



《経営の沿革》

昭和55年：代表丁井 俊がたばこ・ラッキョウで就農開始。
昭和61年：株式会社丁井（現代表：丁井淳史）を設立。
平成5年：農産物生産・加工を目的に有限会社ふぁむを設立。
平成10年：「お百姓さんの作ったスイートポテト」商標登録。

現在（令和6年3月）は、かんしょ8ha、売上高76百万円、従業員数15名となっている。株式会社丁井を含めると総売上高5.1億円。

12



株式会社ナカシマファーム【佐賀県嬉野市】

代表者名：中島 大貴

事業概要：酪農、飼料作物、チーズの製造・販売、飲食店経営

経営規模：酪農97頭、飼料作物15.3ha

従業員数：9名（役員4名、従業員5名）

特徴的な取組

1. 酪農DXに取り組み、省力化を実現

牛の状態を常に管理しつつ、かつ従業員の長時間労働を削減するため、AIを活用した牛管理システムを導入。搾乳牛にウェアラブルデバイスを装着し、データを可視化。重要な判断時期を個体ごとに把握でき、受胎率が向上し、乳量も増えた。労力の削減と省力化をこれからも、進めていく。



2. 排泄物の処理と堆肥化により、循環型酪農を実現

大量に出る家畜排せつ物を処理すると同時に堆肥化し、牛舎の敷料として使用するほか、飼料作物を作る自社水田で利用の他、近隣耕種農家に供給している。配合飼料には乳酸菌添加飼料を混ぜて給餌。堆肥中の豊富な微生物により、病気の原因菌の増殖が押さえられ、乳房炎等の発生も無くなった。自社で営むカフェでは、生分解性のカップを使用。これも堆肥となっている。



3. 飼料用米、大麦生産に取り組み、飼料自給率が向上

輸入飼料の高騰が続く中、生産資材価格を抑えるために食用米から飼料用米へ移行し、自家飼料のWCSを増やした。玄米の形態で利用される飼料用米の栄養価は、牛にとって優れたエネルギー供給源といえる。水田では、稲と大麦の2毛作を行っており、全国的にも例の少ない大麦WCSづくりにも挑戦している。



《地域の特徴》

嬉野市は、県南西部に位置し、なだらかな山間
で霧深く、昼夜の温度差があり日照量の条件が、
茶の栽培に適した地域。



《経営の沿革》

昭和60年： 現代表の祖父が個人創業。
平成7年： 現代表の父親が法人化。
平成21年： 現代表が就農。
平成24年： チーズ製造を開始。
令和3年： 現代表が取締役に就任。

現在（令和6年3月）は、経産牛52頭、育成牛48頭、飼料畑15ヘクタール、売上高1千万円、従業員数9名となっている。



フィールドマスター合同会社【熊本県八代市】

代表者名：林 孝憲

事業概要：稲WC S、牧草イタリアンライグラス、稲WC S収穫受託

経営規模：26.5ha（稲WC S 14ha、牧草イタリアングラス10ha他）

従業員数：8名（役員4名、従業員4名）

特徴的な取組

1. スマート農業の導入による作業の効率化を実現

半径10km以内にある500枚以上の圃場で収穫を行うため、紙の地図での共有は限界を感じていた。そこで、アグリノートを導入し、収穫圃場のオンライン管理を行っている。作業者がスマートフォンで場所の確認ができ、収穫ミスや刈忘れ、輸送チームの迷子防止、新規農業者へのレクチャーの省力化も可能となった。



2. 耕畜連携による持続可能な農業の実践

八代市は稲WC Sの栽培が盛んだが、畜産農家は少なく優良な堆肥が手に入らない一方で、当社の稲WC Sの販売先である熊本県北部畜産地帯では、堆肥の在庫過剰が問題となっていた。この双方の課題を解決するため、稲WC Sの配送の帰り便を利用した低コストでの堆肥の販売を実現。畜産農家へは高品質堆肥づくりに見合う対価を支払い、耕種農家には稲WC S栽培での有機物持ち出しによる地力低下を防ぎ、化成肥料の減量に役立つ良質な堆肥を提供している。



3. 地域農業の魅力を積極的に発信、地域を活性化

干拓地であったという八代市の歴史や農業について伝え、他地域では珍しい稲WC S栽培・収穫に関わる機械が動く様子を各種SNSに投稿している。また、地元の小学生を対象とした農業体験イベントやアグリオリンピックといった農業スポーツイベントも開催、地域を巻き込んだイベントは、地域活性化の一助にもなっている。



《地域の特徴》

八代市の平坦地域では水稻・い草・野菜・花きなどの多彩な作物が生産され、年間を通じた複合経営と施設野菜を中心とした専作経営が行われている。特に冬春トマトは日本一の産地となっている。い草からの転換作物としてブロッコリー等の露地野菜が年々増加している。

八代市



《経営の沿革》

平成28年：フィールドマスター合同会社を設立。
耕種農家が栽培した稲WC Sを県北部の畜産農家へ販売する事業形態を確立。

平成28年：現代表が就農、自社へ入社。
令和3年：代表に就任し、経営を継承。

現在（令和6年3月）は、稲WC S 14ha、牧草イタリアングラス10ha、稲WC S収穫受託133ha、売上高6千万円、従業員数8名となっている。

14



株式会社宮崎茶房【宮崎県五ヶ瀬町】

代表者名：宮崎 亮
 事業概要：有機茶葉の生産、加工、販売
 経営規模：14.8ha
 従業員数：25名（役員3名、従業員22名）

特徴的な取組

1. こだわりの商品づくりで多様化した消費者需要に対応

25を超える品種を有機栽培し、地域特産の釜炒り茶、烏龍茶、紅茶など多様な茶種に加工。消費者ニーズに対応できる商品づくりを行っている。希少価値の高い釜炒り茶については、早くから有機JAS認証を取得し、海外輸出も8ヶ国を超えている。



2. 独創性の高い烏龍茶生産による新たな市場開拓

緑茶用品種は香気発揚が弱く、国内では香りの高い烏龍茶生産は難しいと考えられる中、烏龍茶生産の技術開発にいち早く取り組み、外国産烏龍茶とは異なる国産烏龍茶の新たな市場を開拓している。地域ならではの既存の緑茶用品種を用い、地質を活かした少肥栽培を行うことで、これまでにない香りの高い国産烏龍茶の生産を実現。日本茶アワードや紅茶博覧会等のコンテストで幾度となく上位に入賞している。



3. 消費者交流型マーケティング活動で、中山間地を活性化

来訪者の要望に応じて試飲会や茶園見学、隣接する体験施設での釜炒り茶、紅茶、烏龍茶の簡易な製茶体験等、可能な限り対応しその声を商品に反映させている。五ヶ瀬の美しい景観や独自性の高い多様なお茶の魅力に惹かれ訪れる来訪者は、消費者だけにとどまらず、茶専門業者、小売店、外国からの観光客等、年間約600名にのぼっている。



《地域の特徴》

五ヶ瀬町は、九州のほぼ中央、宮崎県の北西部にあり、宮崎の西の玄関口に位置する。全国有数の生産量を誇る釜炒り茶や園芸、畜産、洋花、ぶどうの他、林業も盛んである。釜炒り茶に関しては、五ヶ瀬町の令和5年度の茶生産戸数は20戸、茶栽培面積は65.1haとなっている。



《経営の沿革》

平成3年：現代表就農。
 平成13年：有機JAS認証取得。
 平成14年：農林水産祭にて《天皇杯》の栄誉授与。
 平成19年：法人設立。
 平成26年：日本茶AWARDプラチナ賞。（発酵系のお茶）

現在（令和6年3月）は、茶14.8ha、売上高1億7千9百万円、従業員数25名となっている。



株式会社高田牧場【長崎県南島原市】

代表者名：高田 紳次

事業概要：肉用牛肥育事業（繁殖・肥育一貫経営）

経営規模：繁殖牛175頭、肥育牛920頭（令和5年12月現在）

従業員数：8名（役員2名、従業員6名、臨時雇用2名）

特徴的な取組

1. 多様な品種・生産方式による大規模生産に取り組み、消費者に求められる肉牛出荷を実現

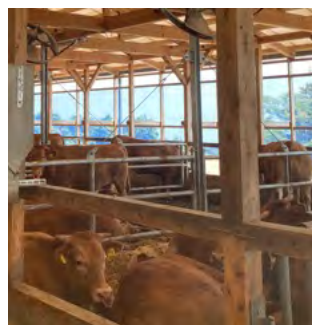
複数の品種（黒毛、褐毛、交雑種等）や肥育方式（一貫、去勢・雌の一般肥育、老廃等）を組み合わせ、多様な肉牛を扱い、「雲仙和牛」ブランドを中心に、高価格帯から低価格帯まで供給可能な体制を構築。その結果、平成20年は1店舗との取引であったものの、現在は約30店舗と取引を行っており、販路拡大が実現された。

2. 自給飼料生産によりコスト削減等を実現

材料費のうち高い割合を占める飼料費が高騰しているため、畜産クラスター事業を活用して、混合飼料施設を整備し、周辺農家の協力を得て、13haの圃場を確保し、自給飼料生産と未利用資源を活用することによりコスト削減と地域循環型社会の構築を実現した。

3. 食品安全の確保への取組

一般的な衛生管理に加えて、重要な危害要因に対する対応方法を明確化した高度な衛生管理（病原体侵入リスク分析に基づく衛生管理方法の策定、治療履歴の保管など）に取り組む。また、肥育牛出荷の際は生産履歴（飼料給与履歴）を添付し、消費者の食品安全に関する信頼性確保への取組をしている。



《地域の特徴》

長崎県南島原半島東部に位置し、温暖な気候を活かして、ばれいしょ・トマト・みかん等が栽培されており、農業が基幹産業となっている地域。また、生産意欲が高い農家が多い。



《経営の沿革》

昭和45年：現代表の祖父が個人創業。
平成12年：2代目社長に現代表者の父が就任。
平成18年：3代目社長に現代表者の高田紳次氏が就任。
平成21年：法人化し、株式会社高田牧場設立。

現在（令和5年12月）は、繁殖牛175頭、肥育牛920頭と飼育頭数は1000頭越えており、売上高10億円、常時雇用8名となっている。

16



吉牟田 太【佐賀県嬉野市】

代表者名：代表 吉牟田 太

事業概要：野菜・花苗生産

経営規模：3.6ha（野菜苗・花苗 14,680㎡、水稻 2.11ha）

従業員数：46名（家族2名、従業員44名）

特徴的な取組

1. ユニークな委員会の設置等、従業員の資質向上のための職場づくりにより、安定した苗生産を実現

苗生産は高度な技術が必要で、従業員の継続した労働や資質向上することが、安定した苗生産をするうえで必要であった。

そのような中、各種委員会（品質向上委員会、スマイル向上委員会等）を設置することで、従業員どうしのコミュニケーションが活発となり、作業効率向上や離職率低下により安定した苗生産を実現できた。

品質向上委員会	ホパイ委員会	スマイル向上委員会	5S徹底
岡 尾形	山田 山口	尾崎 杉本	福田
永石 中村	小柳 藤原	諸井 蒲原	秋山
宮田 中村	光武 吉川	森田 松尾	石井 宮
秋月 ラン	松尾 高田	ラム	馬場 久
トイ	リン シー		吉牟田 太
	山口		高村

2. 作業マニュアル作成や生産管理システムの導入により、作業効率を向上

苗生産においては、多様な品目・品種を同時に栽培するため、品目・品種ごとに栽培管理や進捗管理が必要ななか、「従業員マニュアル」、「生産管理システム（恵）」を導入することで、生産を見える化し、苗生産の作業効率向上を実現した。



3. 従業員の意見や研修会などの情報を積極的に取り入れ、働きやすい環境づくりを行っている

自社で働く人がコミュニケーションを積極的にとり、働きやすい、働き甲斐のある職場となることを目的に、他社への視察や研修会、また従業員の意見を積極的に取り入れ、柔軟な思考により新たな取り組みを積極的に取り入れ、大規模雇用経営を実践している。



《地域の特徴》

嬉野市は、県南西部に位置し、なだらかな山間で霧深く、昼夜の温度差があり日照量の条件が、茶の栽培に適した地域。



《経営の沿革》

平成16年：親元就農。

平成20年：野菜の接ぎ木苗の生産を開始。

令和元年：現代表の吉牟田太へ代表変更。

現在（令和5年12月）は、野菜苗・花苗を中心に生産し、売上高2.8億円、従業員は46名となっている。

ユニークな委員会を設置し、従業員が働きやすい環境を整備し、安定的な苗生産を実践している。



山口 仁司【佐賀県武雄市】

代表者名：山口 仁司

事業概要：キュウリ、水稻、直売所向け野菜生産

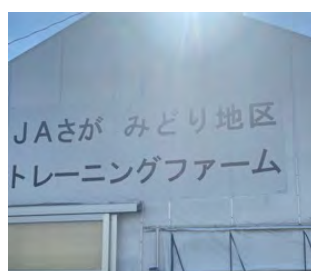
経営規模：1.42ha（施設キュウリ5,600㎡、水稻0.72ha、
直売所向け野菜0.15ha）

従業員数：5名（家族3名、従業員2名）、アルバイト11名

特徴的な取組

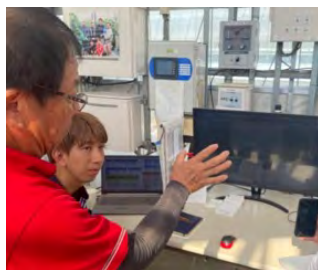
1. トレーニングファームを中心に研修指導を行い、 担い手づくりに貢献

個人経営では限定的になる研修の規模をJAと連携することにより多くの就農希望者を育成できる研修体制（トレーニングファーム）を整えた。トレーニングファームを中心に研修指導を行い、累計30名程度、就農を実現し、県内新規就農者数や地域農業の維持発展に大きく貢献できている。



2. 自身の生育技術を次世代に合理的に継承することで、 研修修了生は高レベルな技術を習得

これまで積み上げてきた技術を次世代に継承。勘と経験に頼らない行動による技術を複合型環境制御装置やデジタル学習コンテンツにより伝承。結果として、研修修了生約30名の多数が、佐賀県トップレベルの収量40t/10aを達成と生育技術は高レベルを実現している。



3. 先駆的な取組を積極的に実施

硬質フィルムハウス（昭和59年）や複合環境制御装置（平成9年）等は佐賀県内で当人が初めて導入している。

その他、ヒートポンプや耐病性品種の導入、自動かん水システムなど先進的な技術をその時々で導入しており、先駆的な取組を積極的に実施している。



《地域の特徴》

武雄市は山林面積が50%を占めるなど雄大な山々に囲まれ、豊かな自然にあふれている。米麦を中心に、施設キュウリや青梗菜、アスパラガス、いちご等が主な農畜産物となっている。



《経営の沿革》

昭和44年：高校卒業と同時に就農

平成19年：佐賀県指導農業士認定

平成29年：JAトレーニングファームの講師

令和元年：佐賀県農業大学校特任講師を務める

現在（令和5年12月）は、施設キュウリ5,600㎡等の生産やトレーニングファームの講師を務めて担い手づくりに注力している。売上高79百万円、従業員数5名となっている。

18



有限会社農園ビギン【新潟県小千谷市】

代表者名：南雲 信幸

事業概要：水稻、園芸（甘藷、カリフラワーなど）、加工

経営規模：33.8ha（水稻28ha、甘藷1.0ha、カリフラワー0.8ha等）

従業員数：9名（役員3名、従業員6名）、アルバイト6名

特徴的な取組

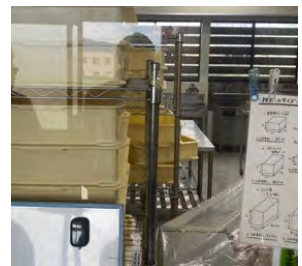
1. 宿泊できる研修施設を整備し、研修生を受入れ、農業従事者の増加に貢献

平成19年に新潟県指導農業士認定以来、年々の農業教育の意欲が高まり、担い手育成を開始。宿泊施設を整備のうえ、農業学生（短期間）や就農希望者（2～3年）に対して、多角的な経営についての研修を実施し、2名の独立就農者を輩出している。また、学生の研修受入者も県内外に就農や農業法人へ就業し、農業従事者の増加に貢献。



2. 経営多角化により豪雪地帯においても通年雇用が実現

中山間地域で豪雪地帯のなか、農産物生産だけでなく、冬期のサツマイモ加工・販売を開始し経営を多角化することで、通年雇用が実現でき農業経営基盤の強化が図れた。



3. 消費者ニーズへの対応により販売力強化を実現

販路拡大のため、県内直売所やECサイト、自社のHPを活用し直販比率を高めることで、固定客を確保しつつ、消費者ニーズを把握できている。

また、直販比率を高めることで利益率向上に寄与している。



《地域の特徴》

小千谷地域は緩傾斜地帯が多く、水田と園芸農業が盛んな地域。園芸では、スイカ、メロン、カリフラワーが主に栽培されている。



《経営の沿革》

昭和49年：現代表が小千谷市で就農。

平成2年：有限会社農園ビギンを設立。

平成19年：指導農業士認定。

平成26年：小千谷市農業活性化協議会を設立。
(現在：会長)

現在（令和6年2月）は、水稻28ha、甘藷1ha、カリフラワー0.8ha等の農業生産や甘藷加工・販売を行っており、売上高79百万円、従業員数9名となっている。

令和 6 年 12 月 20 日発行

当現地調査報告書は、令和 6 年度経営発展・就農促進委託事業のうち全国優良経営体調査等委託事業の現地調査結果を踏まえ、一般社団法人全国農業会議所が作成したものです。

